

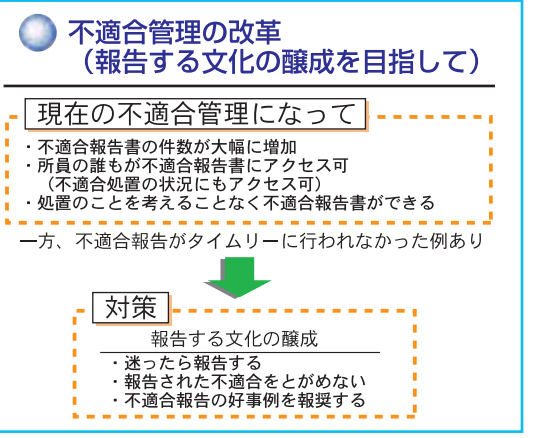
・定期検査で制御棒作動確認の検査を行う場合、1本しか制御棒を抜くことができないようにインターロックが設けられているが、これが誤って解除されていたことが判明。
↓所長を委員長とする保安運営委員会において柏崎刈羽原発での発生可能性とその対策を審議。「インターロック除外中」の表示板を設置することとした。

②福島第二・3号機での制御棒が挿入されていないセル*への燃料装荷

*セル：燃料集合体4体と制御棒1本が収まる1つの格子

・燃料装荷作業手順では、セルに制御棒を挿入後に燃料集合体を装荷する手順だが、制御棒の挿入されていないセルに誤って燃料集合体を装荷。
↓保安運営委員会において柏崎刈羽原発での発生可能性と対策を審議。柏崎刈羽原発のチェックシートは発生防止に有効なことを確認。

●報告する文化の醸成を目指して



▼意見交換・質疑応答

意見 問題は、点検ルールに従っていけば安全が保証されるという前提が実は無かったのではという点。シユラウドは今まで検査対象でなかった箇所が割れており、再循環系配管は今まで10年で4分の1点検が今は5年で全部点検、検査手法にも問題あるなどルール自体に問題があった。
最近では福島第二・2号機で点検対象外の溶接線から離れた所にもひびが見つかり、これを踏まえれば柏崎刈羽でも追加調査が必要。また、他の原発で前回検査で異常無し

の箇所が今回ひびありの事例もある。これらがどう反映されるのか。量産システムに適合したISOの手法を原子力のような複雑なシステムにそのまま適用できるか疑問。

意見 今の「量産システムにおける品質保証」は間違った見解。日々の仕事の仕方、品質、あらゆるものを最善・最適にしていこうというのがISOの理念。今日の説明で品質保証の考え方を原発の独自のやり方からISO9001への移行を検討していると理解。

発電所においてISO全てが適用しているのか、どの部分が重要な手法なのか、定期的な自己検証が大切なのでは。

意見 ISO9001を選んだのは賢明。東電の場合、設備の設置以降は定期的な維持・保全・整備の繰り返しで、作業手順、検査等をきちんとしていないと、後で履歴管理ができない。ISOの要求項目は品質方針から最後のデータ解析まで相当なものがあり、整備するのは大変だが、レベルを

上げていってほしい。
ISO導入により、社員一人一人が目標を理解して設定することになり、上司とのすり合わせも行われ、実践・改善しながら品質保証のレベルが上がっていくと思われる。

意見 故高木仁三郎先生の「原発は何事故を起こすのか」という本の中で、原子力の世界は意見を戦わすことを嫌い、一つの方針が出されるとその方向へ流れ、批判をタブー視するということを指摘。
不適合委員会が上がってくる意見・問題点について何故出てきたのかという議論が果たしてあるのか疑問。今までのように出てきた問題点を切り捨て、つぶすようなことが完全に無くなるのか、人がやること故に疑問を感じる。

意見 今回の一番の問題点は、報告がキチンと処理されず、表に出てこなかった点。今回を機に説明のような改善に取り組み、不適合を報告しやすいい環境を作っていくことが一番良いのではないか。